

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
<http://tohoku-saiko.jp/>
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create , TOHOKU!

2 0 2 6 年（令和 8 年）5 月 16 日 土曜日

無料

第168号

毎月発行

発行 2026 年（令和 8 年）5 月 16 日 土曜日

【当新聞発行責任者
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ。72 歳の新人映像作家兼プロデューサー兼作家。趣味は古代史・縄文文化研究。現在、埋もれた歴史を掘り起こす歴史書籍の執筆開始。また、企業価値増大と IPO サポートを専門とする会社を今年 4 月に起業。電子新聞『東北再興』の発行責任者兼編集者兼記者でもある。



新聞発行大幅遅延に関する謝罪(再度)
今月号より従来の発行日の発行に戻ります
これまでご迷惑とご心配をおかけいたしました
ことをあらためて謹んでお詫び申し上げます

『クマの新仮説』で対処するしかない！
クマの変化に人間が追いついていない
「米」を狙うクマが増えていることに注意

今年もクマ事故発生
ペースが続いている

環境省は昨年度のクマの出没件数が五万七千七百七十六件で、これまで最多の二十三年度の倍以上で、集計開始年度以降で最多と発表。

捕獲数も一万四千七百二十頭とこの二十年間で最多。

捕獲数中九十九%以上の一万四千六百一が捕殺。

都府県別では、秋田県の一萬三千五百九十二件が最多で、岩手県

九千七百三十九件、宮城県三千五百五十九と続いた。

昨年度の人身被害者数は二百三十八人。うち死者は十三で、いずれも過去最悪。

今春、冬眠から目覚めたツキノワグマが、東北、信越、北陸地方で活動範囲を広げ、

猛威を振るっている。すでに三人の死者を出している。クマ被害は一向に衰える兆しが見えない。

クマに関する認識が間違っていた？

それにしても、昨年から

のクマ報道でいつも指摘されている「原因」はほんとうに正しいのだろうかと思う。

つまりドングリが不作だから被害が頻発するのか？

人家密集地で出没する理由は何か？クマは急激に変化したのか、してないのか？

そこで当新聞は大胆な「仮説」を打ち出し、上記のナゾに挑戦したいと思う。

ツキノワグマの従来の食べ物の誤解

『哺乳類の食事事典』（山と溪谷社）によれば、ツキノワグマは植物や昆虫などを主食とした植物食中心の雑食性で、季節や地域ごとに食べ物が変化し、また個体によって違いも大きく、食

事メニューは実に多様。春には山菜などの草本類、花や新芽など、夏にはアリ・ハチなどの昆虫、植物の果

実（液果類）などを食べる。動物質で最も多かったのはアリやハチで、二ホンジカ等の哺乳類を食べることも

もあるが、死体などを偶然見つけて食べることが多い。

ということは、まず、ツキノワグマは山のドングリだけで生きていないのでドングリの不作のみでクマが頻

繁に出没すると決めつけるのは誤りではないのか？

ツキノワグマの新しい食べ物

近年のクマの食性変化を指摘する研究者もいる。

いわく、年によってバラツキもあり、クマの出没が

少ない年は森林内の液果類を多く食べていたが、クマ

の出没が多い年には人里周辺のカキを多く食べていた。

さらに、大量出没年の二〇二四年はカキ凶作のため、さらなる代替としてク

リが主要採食物になった。兵庫県の研究でも、ブナ、

コナラ、ミズナラといったブナ科の木の実の豊凶を調

査し、主食であるドングリがなくなれば、クマは困り

果てて人里へ下りてくるとい

うのが、これまでのツキノワグマの出没予測の根幹

だったが、「近畿北部西側個体群」の秋の主食はアオハ

ダなどのベリー類だったという

ことだ。これらによりドングリ不

作に集中していたクマ出没原因は誤りであると結論づ

けてもよいのではないかと？

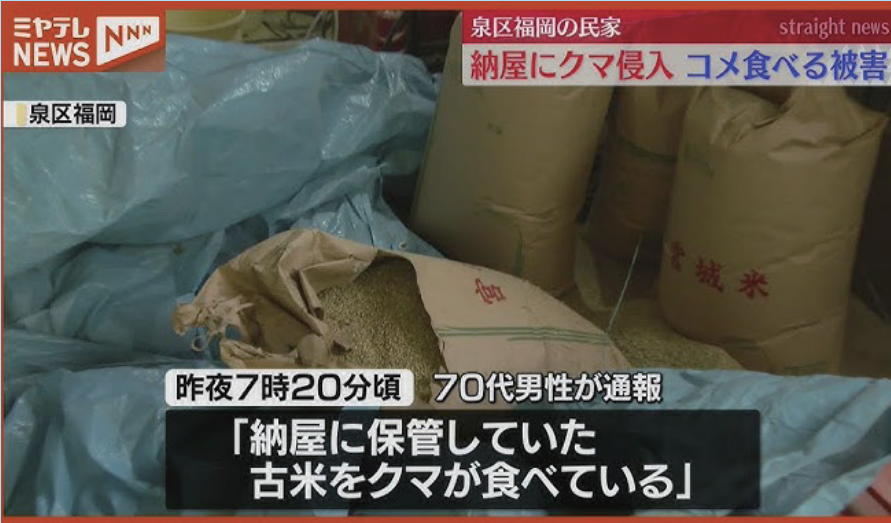
では、なぜクマが住宅に侵入するのか？

しかし、ここまで見てきた「原因」で住宅地に出没する理由は見つからない。他に「原因」があるはずだ。

ある研究家が注目するのは「米」だ。最近、東北各県で米を狙ったとみられるクマの出没が相次ぐ。稲田に



ツキノワグマの食物・・・『哺乳類の食事事典』（山と溪谷社）より



仙台市の人家の米をクマが食った形跡・・・ミヤテレNEWS NNN より

実った米を食べるクマは以前から存在したが、最近は住宅内の米を狙うケースが増加しているというのだ。岩手の和賀町では、住宅や住宅敷地内の倉庫が繰り返し襲われ、米が食べられた。クマが米を狙って住宅に接近し、侵入すれば、人身被害の可能性は高くなる。クマによる米の被害は、報道されているだけでも岩手県西和賀町のほか、一関市、釜石市、秋田県鹿角市、宮城県仙台市、福島県会津坂下町などで発生している。

「田んぼで稲もみを食べるよりも、住宅に押し入ったほうが米を簡単に大量に食べられると覚えたクマが、米のありかを探している恐れがある」というのだ。クマが人家に出没する理由はきつとこれであろう。それ以外の「原因」

「米」以外でクマが食べる人工の食物は、果物全般、トウモロコシ、スイカ、メロン、ダイズ、ムギ、ソバ、キウリやカボチャ、トマト、クワの実やサクラの実、クルミ、コンポスト、生ゴミ、空きビン・空き缶、米ぬかなど、畑や人家にあるものだ。

＊

これらが、クマが人家やその周辺に出没する「原因」ではないだろうか？ まことに恐ろしい状況に直面しているといえる。

【東北被災地の中小企業生き残りと活性化】 シリーズ③

東北農業生き残りのためには「法人化」に舵を切る必要があるが、その前に農地所有者不明・不在問題あり

国内農業の「闇」が改革を阻む

ほんの少し前までの国内米価の急上昇も不思議な現象だった。なぜ値上がりするのか理由がよく分からないまま、とんでもなく米価は上昇していった。

続いて、今度は、米余り状況だというのに、値段がなかなか下がらず、急上昇した米価より高い水準で推移

しているという不思議な現象が続いている。日本農業は、大きく変わらなければ生き残れないと誰もが思っているだろうが、こうした不思議、いや「闇」といつてもいいような不思議がはびこっているのでは改革はむずかしいのだろうと感じてしまう。

そんなところに、またまた大きな「闇」が明るみに出てきたのだ。

農地集約や生産性向上を阻む『農地所有者不明・不在問題』

その新たな「闇」とは、持ち主がわからなかったり、遠方に住んでいて不在だったりする農地がとてつもなく増えているという驚くべき問題である。

農林水産省によると二〇二五年三月末時点で全国の農地の実に二割

百六万ヘクタールが所有者不明・不在の状態だったというのだ。

この広さは岐阜県一県の面積に相当する広さである。またこれは、二〇一七年三月末に比べ十四%広がったというのだ。

なぜこうなってしまったのだろうか？不思議で仕方がない。関係者の不作為の連続のせいなのだろうか、なぜここまで見過ごされてきたのか、不思議を通り越してあきれ果てるばかりだ。

農地の所有者が不明・不在だと、農地を集約して生産性を高める取り組みの障壁になるのは当然である。

また、将来、耕作放棄地になる可能性もあるというのに、こうなるまで放置されてきたのだ。

こんなことでは、日本の農業も、もちろん東北農業も、改革などとても望めず、衰退していくしかないだろうと誰もが思うはずだ。

『農地所有者不明・不在問題』の現場

所有者不明農地とは、不動産登記簿等により所有者が直ちに判明しない農地及び所有者が判明してもその所在が不明で連絡がつかない農地のことを指す。その農地については、権

利関係が不明確となり、多数に及ぶ相続人の探索に多大な時間を要すること等により、地域において担い手への集積・集約が進まな

いなどの原因になっている。そこで、あくまで応急的な便宜措置として、所有者不明農地であっても、全ての相続人を調べることなく、簡易な手続で最長四十年間借りることが可能になった

が、あくまで便宜的な措置であり、本格的な農地集積・集約化にはつながりにくいだろう。

現に、この便宜的な措置を利用したケースは、二〇二五年三月末時点で、三百ヘクタールにも満たず、焼け石の水にもならない。

根本的な大改革が不可欠であるが、いまのところ、そうした兆しは見えない。

やっと国会で取り上げられた

そうしたところ、今月

十一日の参議院決算委員会で、自民党の藤井一博議員が「所有者不明農地」の問題を取り上げた。

そして、前記の「所有者不明農地」の現状を述べた。また相続登記の義務化などの対策も有効ではないことにも言及した。

そして「農業の生産性向上が急務であります。圃場の大区画化を進めていかなければなりません。所有者不明土地の存在がボトルネックになると考えております」と述べ、所有者不明農地の解消策について担当大臣に質問した。

これに対し、大臣は「不動産登記簿で所有者が直ちに判明しない農地の面積が、令和七年三月末現在で49.7万ヘクタールであり、前回令和三年度調査からは2.3万ヘクタール減少したものの、全農地の約一割に相当する面積となっております」と報告した。

大臣に任せておける状況ではないと誰もが思うだろう。何らかの「強制的な措置」が必要だろう。それに反対する勢力も出るだろうが、農地荒廃をこのまま見過ごすのとどちらがいいのか判断せざるを得ないだろう。

日本農業にも、東北農業にも次々に登場する「闇」をひとつずつ消していけないと、ほんとうに日本から農業が消滅していくだろう。ほんとうにそれでいいのだろうか？

国家的問題として取り組むべき

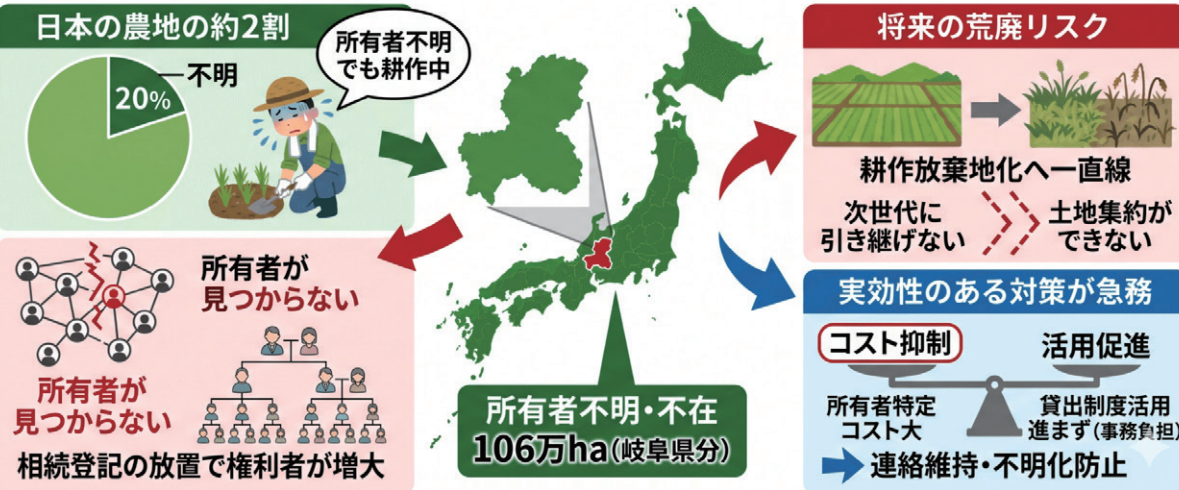
最早、農林水産省や担当

大臣に任せておける状況ではないと誰もが思うだろう。何らかの「強制的な措置」が必要だろう。それに反対する勢力も出るだろうが、農地荒廃をこのまま見過ごすのとどちらがいいのか判断せざるを得ないだろう。

日本農業にも、東北農業にも次々に登場する「闇」をひとつずつ消していけないと、ほんとうに日本から農業が消滅していくだろう。ほんとうにそれでいいのだろうか？

所有者不明農地 106万ha の衝撃！『荒れる農地』を防げ

岐阜県分の面積、2030年の維持目標に暗雲

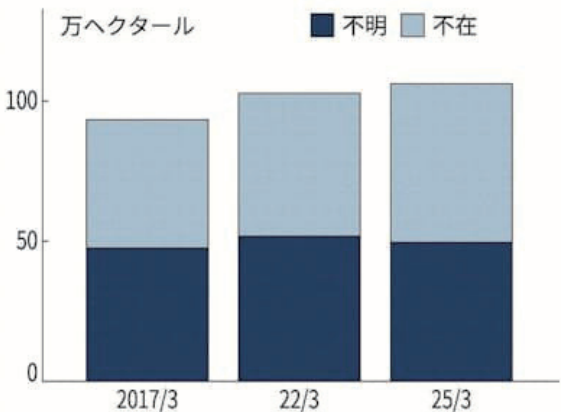


所有者不明農地は岐阜県一県相当の面積あり！
・・・フーチャーインベスターより



耕作放棄地イメージ画像・・・日本経済新聞より

所有者が不明・不在の農地は増加傾向



耕作放棄地増加傾向・・・
日本経済新聞より

東北 TOPICS

当新聞が独自に選んでコメントするスモールニュースコーナー



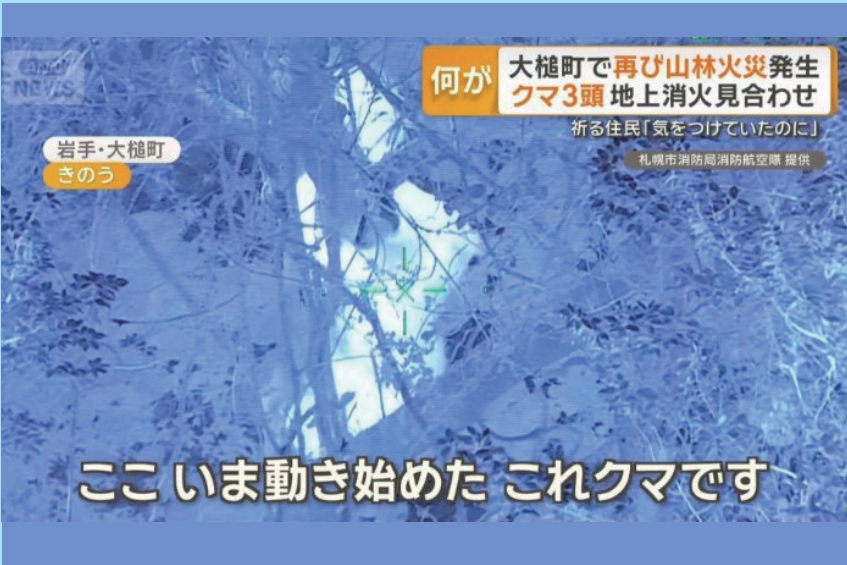
2日に鎮圧宣言の大槌町で別の山火発生・・・テレ朝NEWSより301

大槌山火事 鎮圧後に再燃 鎮圧宣言の2日後で住民動揺 クマも出現で消火活動に支障

「鎮圧宣言から四日後に再び別の山火発生」

大々的に報道されていた岩手県大槌町の山林火災は、四月二十二日の発生から十一日目で、町の面積の八%にあたる千六百三十三を焼き、今月二日午後、「鎮圧」を宣言したばかりだった。

しかし、その四日後の五月六日午後、町の中心部に近い山林で新たな火災が発生したことは大きく取り上げられていなかったの知らない人も多いだろう。火元は前回出火した二カ所とは離れた山林で、消防は新たな火事が起きたとみている。しかし、その予兆は六日



ここいま動き始めた これクマです

大槌町の再燃現場にクマ出現・・・テレ朝NEWSより



大槌町山火事地図・・・毎日新聞より

地上の鎮火活動に支障

ところが、熱源センサーカメラが期待せずして捉えたクマの映像によって、消火活動への見通しが大きく暗転してしまったのだ。

焼失エリアでクマの存在が確認された以上、地上部隊を送り込むことができなかった。

町の消防団員からは『とてもではないが、怖くて山に入れない』との声が上が

ただでなく、今回の大規模山林火災における焼失面積の千六百三十三ヘクタールに及んだエリアで居場所を失ったツキノワグマが次々と里や街中に下りてくるのではないかと、この懸念が現実的かつ深刻な脅威と

して、急浮上してきているというのだ。

最初の山火発生時から、火に追われたクマが山から里に下りてくるのではないかとという「不安の声」が現実化してしまったのだ。住民の不安は募るばかりだろう。

一難去ってまた一難、さらにトドメの一難

最初の山火事も大災難だった

が、さらにはその次の再燃も大災難、そして今度は噂にすぎなかったクマ出現が現実化した。

災難続きの大槌町民の皆さんには、心からお悔やみ申し上げたいし、しっかりと対策して、この難局を切り抜けて欲しいと心から願っている。

「東北は知っている」がそれが「東北に行く」に結びつかないのはなぜ？

ツブが浮かんだ形。

トップだった首都圏の六十五%などより少ないが、北海道と並ぶ認知度だ。

だが東北の観光地のいずれかに「行きたい」としたのは十六%にとどまった。首都圏（四十六%）や関西（四十五%）と差があり「知っている」が同率の北海道の二十六%にも水をあけられた。

認知度が訪問の意向につながらない要因について、同行は「周りに訪ねた人が少なく、SNSなどの情報量も十分とはいえないため、実際に東北でどんな体験ができるのかイメージしづらいからでは」と分析する。実際、昨年のインバウンドは北海道は延べ千二百八十二万人、東北は延べ二百七十七万人にとどまっている。

日本政策投資銀行などが昨年、アジアや欧米等十二の国・地域の海外旅行経験者にアンケート実施、七千四百十三人が有効回答した。

東北観光地について聞いたところ、四十二%が東北観光地八カ所（青森、弘前、盛岡、仙台、松島、秋田、山形、福島）のいずれかを「知っている」が、「行きたい」と答えたのは十六%にとどまったという。

東北のインバウンドは他地域に比べ伸び悩んでいるが、一定の認知度はあるが訪問までには至らないギャ

東北観光地の認知率(左)と訪問意向率(%)	
福島	26→7
仙台	15→5
青森	13→5
秋田	11→4
弘前	9→3
山形	8→3
松島	7→2
盛岡	4→1

人流データによる来訪者数ランキングから分かること

二〇二五年の東北の来訪者ランキングが公表

位置情報データに基づくサービスの開発・提供を行っている。ブログウオッチャーが今年一月に「二〇二五年最新」東北・来訪者数ランキング発表！データの推移から読み解く、二〇二五年の『おでかけトレンド』を公表した。同社の人流データ分析サービスを活用して、昨年の東北各県における来訪地ランキングが作成されている。見てみるとなかなか興味深い。

意外なランキング上位

東北全体を見ると、来訪者数の上位一五スポットは多い順に、セデッテかしま（福島県南相馬市）、道の駅猪苗代（福島県猪苗代町）、道の駅三滝堂（宮城県登米市）、アエル（仙台市）、盛岡駅ビルフェザン（盛岡市）、楽天生命パーク宮城（仙台市）、スパリゾートハワイアンズ（福島県いわき市）、道の駅米沢（山形県米沢市）、鶴ヶ城市民公園（福島県会津若松市）、あ・ら・伊達な道の駅（宮城県大崎市）、弘前公園（青森県弘前市）、ザ・モール仙台長町店（仙台市）、いわき・ら・ら・ミュウ（福島県いわき市）、藤崎仙台北店（仙台市）、道の駅上品の郷（宮城県石巻市）となっている。

正直なところ、私が抱いていた印象とはだいぶ違う。そうなのか？という感じである。栄えある一位に輝いたセデッテかしまは、常磐自動車道のサービスエリアにある施設で、この地域の魅力を感じてもらうために伝統の祭り「相馬野馬追を紹介しているホール、運転の疲れを癒やす休憩の場であるコミュニティ広場、地域の食材を活かした食事をリーズナブルに提供する食事処、この地域ならではの商品を揃えたお土産処、三つの店舗からなるテナントエリア、それにドッグランがある。確かに魅力ある施設であるが、ここが東北で最も来訪者数が多い施設だとはついぞ考えなかった。二位に道の駅猪苗代、三位に道の駅三滝堂がランクインし、それ以降も一五位までに四施設がランクインしているところから見ても、同レポートでも指摘されている通り、道の駅やサービスエリアといった車で行く施設が観光の主役になっている様子が窺える。

一方で、仙台駅前の複合ビルアエルや盛岡駅ビルフェザン、ザ・モール仙台長町店、仙台市内の老舗百貨店藤崎仙台北店などがランクインしていることから、特に仙台や盛岡では市街地中心部で人流が多いことが分かる。地方では市街地中心部の空洞化が指摘されることが多いが、地域によっては一概にそうとも言えない状況が示されている。とりわけ、首都圏を含めて苦戦ぶりが伝えられることの多い百貨店の中にあって、藤崎仙台北店の健闘ぶりが光る。これも正直目からウロコであった。

九位の鶴ヶ城市民公園と一位の弘前公園はさすがである。どちらも桜の名所でもあるが、桜だけでは一年を通して見た時にここまで来訪者が多くはならないはずである。どちらも城址公園であり、観光スポットとして春だけではなく、一年中人が訪れているのであろう。

六位の東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地楽天生命パーク宮城（今年から楽天モバイル最強パーク宮城に名称変更）、七位の「東北のハワイ」スパリゾートハワイアンズの集客力もさすがである。

各県ごとに見てみると

東北の各県ごとに見てみると、それぞれの県の個別の特徴も見えてくる。青森県は東北全体のランキング上位一五位までに食い込んでいるのは弘前公園のみで、その弘前公園が一位、次いで青森観光物産館アスパム、三位に八食センターと来て、四位にようやく道の駅いかりがせき津軽関の庄がランクインしている。一五位までの中に道の駅はここを含めて五つ、少なくはないが、他県ほどは上位を占めていない。むしろ、二位、三位を始め、五位のねぶたの家ワ・ラッセ、六位の八戸屋台村みろく横丁、八位のヒロコ、一〇位のアウガなど、市街地中心部の施設が健闘しているのが印象的である。一位の三内丸山遺跡と一五位の青森県立美術館は隣接しており、相乗効果が窺える。

岩手県は、東北全体で五位にランクインした盛岡駅ビルフェザンが一位、二位に道の駅雪石あねつ、三位に盛岡駅前滝の広場がランクインしている。三位に盛岡駅前滝の広場がランクインしているのは、やはり盛岡駅

周辺の人流量が多いことを物語っている。以降、一五位までに道の駅が合わせて八施設ランクインしており、上位一五位までの半数以上が道の駅だが、それ以外に六位に小岩井農場まきば園、七位に平泉の毛越寺、九位に安比高原スキー場、一〇位に盛岡城跡公園がランクインしており、道の駅一色というわけでもなく、バラエティに富んでいる。

宮城県は、東北全体で一五位までにランクインした七つの施設が上位七つで、それ以降は八位に金蛇水神社、九位に県立自然公園松島、一〇位にサッカードガルタ仙台のホームセキスイハイムスーパーアリーナ、二位に南三陸さんさん商店街、三位に仙台北城跡、四位に瑞巖寺、一位に仙台商みの杜水族館がランクインしており、道の駅は合わせて四つのみである。八位の金蛇水神社は昨年が巳年であったことも関係してそうである。九位と一四位を見ると、やはり松島は人が多く集まるスポットであることが分かる。大震災の天津波から復興した南三陸さんさん商店街の健闘ぶりを目を引く。

秋田県には、東北全体の一五位までにランクインしたスポットはなかった。一位が道の駅象潟、二位が道の駅ふたつ、三位が天王ダリーンランド、以下七位の秋田ふるさと村を除いて上位一〇位まで全て道の駅が

独占していて、一五位までに合わせて一〇の道の駅がランクインしているのがすごい。他は、二位に秋田まるごと市場、三位にアトリオン、四位にあきた芸術劇場ミルハス、一位に秋田市民市場がランクインしているくらいである。

山形県も、東北全体で八位だった道の駅米沢を始め、道の駅の割合が高い。二位に道の駅天童温泉、三位に道の駅尾花沢・ねまると来て、七位の霞城セントラル、一〇位のサッカールのモンテディオ山形のホームともなっている山形県総合運動公園以外は上位一〇位までは残り全てが道の駅である。一五位までに九つの道の駅がランクインしている他は、二位に米沢城址である松が岬公園、三位に立石寺（山寺）、四位にクラゲで有名な鶴岡市立加茂水族館、一五位に庄内観光物産館ふるさと本舗がランクインしている。山形駅至近の霞城セントラルが七位にランクインしていることから、山形市も中心部の人流量が一定程度多いことが窺える。

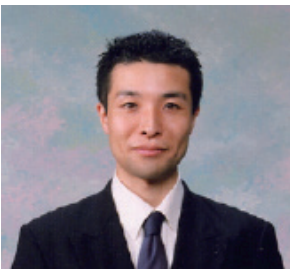
福島県は、東北全体で一五位までにランクインした五つの施設に続いて、六位から九位までが道の駅で一五位までのランキング全体では道の駅とサービスエリアが合わせて八つランクインしている。それ以外では、一位にアクアマリンパーク、一三位にアクアマリンふくしまがランクインしており、

順位	来訪地	2024年 順位	順位変動
1	セデッテかしま	1	→
2	道の駅猪苗代	2	→
3	道の駅三滝堂	4	+1
4	AER（アエル）	7	+3
5	盛岡駅ビル フェザン	5	→
6	楽天生命パーク宮城	3	-3
7	スパリゾートハワイアンズ	6	-1
8	道の駅米沢	9	+1
9	鶴ヶ城市民公園	8	-1
10	あ・ら・伊達な道の駅	10	→
11	弘前公園	11	→
12	ザ・モール仙台長町店	12	→
13	いわき・ら・ら・ミュウ	17	+4
14	藤崎仙台北店	13	-1
15	道の駅上品の郷	14	-1

東北エリア来訪地ランキング

執筆者紹介

大友浩平
（おおもこうへい）
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagma/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.ootomo>

東北全体にランクインしたスパリゾートハワイアンズとiwaki・ら・ら・ミュウと合わせて、浜通りのいわき市の来訪者数の多さが印象的である。また、二位に郡山駅西口広場、一五位に開成山公園がランクインしており、郡山市の市街地中心部の人流の多さが窺える。

光スポットを凌駕する圧倒的な道の駅の存在感である。言ってみれば、観光スポットよりも道の駅の方が人が集まっているのである。これを活用しない手はない。道の駅を企画の根本に据えた観光イベントの立案などをより充実させるべきであろう。また、単一の道の駅だけでなく、近隣同士の道の駅が連携しての周遊企画なども考えられそうである。

道の駅にこれだけ人が集まっているということは、それだけ車移動が多いということ、それを想定しての施策が重視されることにはなるが、一方で例えば外国人観光客、さらには普段車を

使用する人の割合が少ない首都圏からの観光客にとつては、車移動を前提にした企画は合わない可能性が高い。車一辺倒ではない多様さも求められる。

ともあれ、こうしたデータに基づいた観光施策の立案が今後一層求められることは間違いない。個人的に気になるのは、東北全体でセデッテかしまである。道の駅でないサービスエリアでランクインしているのは各県のランキングまで見てもここだけである。数多くあるサービスエリアと何がそこまで違うのか、一度行って確かめてみようと思う。

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

シリーズ・東北の人口減少対策 その②

たったの100年間で大都市圏集中が爆発的に進んだ こんな異常状態がさまざまな弊害だけを産み出している

東北の人口減少は東北だけのせいではない

東北からの人の流出と人口減少が止まらない。

これを何とか逆転させなければならぬことは十二分に分かっている。しかし、小規模の改善策ではどうにもならないような気がする。また、東北人口減少問題を考えるのに東日本大震災による人口流出にフォーカスしてはいけないとも思う。そしてまた、人口減少問題は東北に限っての話でもなさそう。

ここから言えるのは、この国の人口問題を根本的な構造から考え直さなければならぬという視点がまず根底に必要だということ

百年前の大都市圏への爆発的集中の発生前

左に掲載したのは、今から約百年前の西暦一九二〇年都道府県別の人口である。日本全体の人口が五千五百九十六万人で、現

1920 年の都道府県人口（第1 回国勢調査）

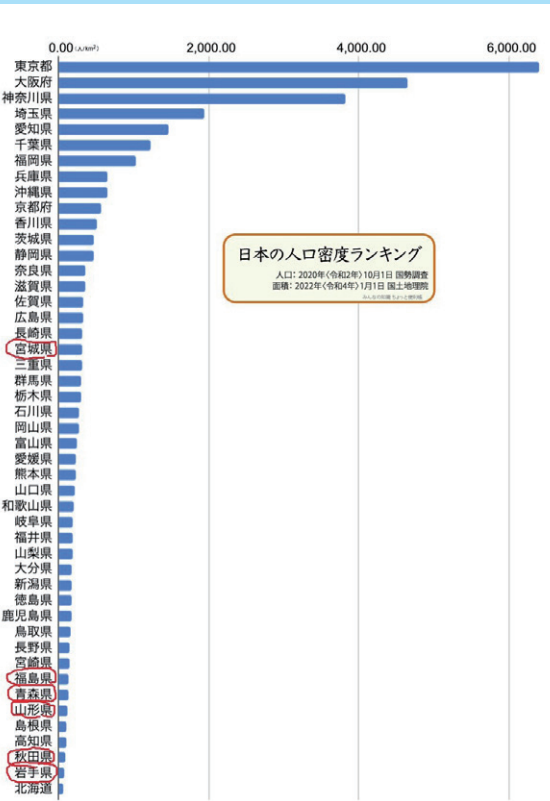
順位	都道府県	人口 (万人)			
1	東京	370	25	栃木	105
2	大阪	259	26	山口	104
3	北海道	236	27	山形	97
4	兵庫	230	28	宮城	96
5	福岡	219	29	秋田	90
6	愛知	209	30	大分	86
7	新潟	178	31	岩手	85
8	長野	156	32	青森	76
9	静岡	155	33	和歌山	75
10	広島	154	34	石川	75
11	鹿児島	142	35	富山	72
12	福島	136	36	島根	71
13	茨城	135	37	香川	68
14	千葉	134	38	佐賀	67
15	神奈川	132	39	徳島	67
16	埼玉	132	40	高知	67
17	京都	129	41	宮崎	65
18	熊本	123	42	滋賀	65
19	岡山	122	43	福井	60
20	長崎	114	44	山梨	58
21	岐阜	107	45	沖縄	57
22	三重	107	46	奈良	56
23	群馬	105	47	鳥取	45
24	愛媛	105		全国	5596

1920 年の都道府県別人口ランキング（赤丸が東北）・・・ダイヤモンドオンラインより

江戸時代の江戸のまわりの人口は最大百万人超ともいわれ、当時の世界でも異常に突出した人口数であった。そこまで人口が集中していた要因は、江戸幕府が出来て、軍事力強化のために人を集めたことなどさまざまあるようだが、なかでも大火事頻発という要因が考えられるのだ。

江戸急膨張の弊害

江戸時代の江戸のまわりの人口は最大百万人超ともいわれ、当時の世界でも異常に突出した人口数であった。そこまで人口が集中していた要因は、江戸幕府が出来て、軍事力強化のために人を集めたことなどさまざまあるようだが、なかでも大火事頻発という要因が考えられるのだ。



令和 2 年の都道府県別人口密度ランキング（赤丸が東北）・・・みんなの知識 ちょっと便利帳より

しかし、急膨張によるさまざまな弊害も生んだ。まず、町人が住むエリアが非常に狭く、そこに収容人数をはるかにオーバーする人間がなだれ込んだため、最初に住居問題が発生した。そこで誕生したのが、いわゆる「狭くて窮屈な長屋」で、江戸は「長屋」だらけになった。これは江戸特有の状況であるが、とにかく、異常な人口密度で、何だかそれが現在も続いているような気がしてしまう。

大都市圏は居住不適合

さらに、集中的に江戸に流入したのは様々な職人たちが、すべてが男性だった。それにより、江戸の男女比率は、女性一人に男性二人くらいだったようだ。そこから、女性は引く手あまただが、男性は余剰となり、平均結婚年齢は四十歳台で、結婚できない男性であふれたという話がある。

(株)遊無有が企画・制作した映像DVDを新春特別価格(55%OFF)で提供！

東北の歴史シリーズ 鬼がつくった日本刀



価格：1500 円 / 本（税込・送料無料）
商品は申込返信メールに記載の振込先にて入金確認次第発送いたします

日本刀のルーツは古代東北にあり！数多くの資料を丹念に読み込み、多くの名刀を展示する宮城県北部の中鉢美術館の協力を得て、また宮城県北部の数々の遺構を尋ね歩いて制作した日本刀の定説をくつがえす歴史ドキュメンタリー映像。古代の奥州刀鍛冶は強制移住を強いられ全国に送られそこで作刀した。そうして日本刀が全国で作られたのだ。しかし彼らは「鬼」とさげすまれた。そうした境遇にもかかわらず、数々の名刀をつくり上げていった。その埋もれた歴史の発掘ドキュメンタリー（約 53 分）

お申込方法：購入者氏名・お届け先住所・電話番号・メールアドレス・購入希望の本数を明記して
右記メールアドレス宛お申込ください（送料無料） mail：y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北スポーツニュース

東北のチーム・出身者や東北拠点の選手の活躍



張本美和選手が 11 連敗中の難敵の世界 2 位に初勝利・・・テレ東卓球 NEWS より

仙台出身・卓球の張本兄妹が 世界卓球団体戦で大活躍！ 兄妹とも世界ランキング3位に

日本時間の五月十日と翌十一日、ロンドンで世界卓球団体戦の男女の決勝戦が行われた。

日本の男女チームはともに予選にはじまり、トーナメントでも大活躍でついに決勝戦に昇りつめた。

これだけでも大興奮であるが、なんと、そこで、仙台市出身の張本兄妹が大活躍したのだ。

テレビでは連日のように、熱戦の様子が放送された。ついには決勝戦前まで残ったということで、筆者のように、夜中に観戦したにわか卓球ファンもたくさんいたにちがいない。

妹の張本美和選手はまだ十七歳だが、すでに日本チームの大黒柱である。従来の選手育成パターンでは考えられないような早熟な天才選手といっても過言ではない。

一方の兄の張本智和選手は二十二歳だが、すでにその活躍は日本卓球界だけでなく、世界の卓球界でも有名であり、日本男子チームの中心選手である。こちらも早熟な天才選手である。

両親は中国四川省出身の卓球選手で、二〇一四年春、父・張本宇らと共に中国から来日、父と兄の智和選手、妹の美和選手は日本に帰化し、姓を「張本」に変更した。そうした両親の元で、英才教育を受けてきたので、早熟な天才として成長を続けても不思議はない。

*

美和選手は、決勝戦で、難敵である過去十一戦全敗の中国の世界ランク二位の王曼昱を大一番でフルセットの末に下した。見ごたえある戦いだっただ。

この先勝により、決勝戦の戦いに勢いがついた。

兄の智和選手も、決勝戦の第一試合に登場し、途中までリードしていたが、惜しくも敗戦となった。

*

団体戦の優勝には中国という巨大な壁が立ちほだかつたが、いずれこの兄妹が日本チームを率いて優勝する可能性は非常に大きい。とても楽しみである。

*

試合後には美和選手が、兄の智和選手とともに、世界ランク3位に浮上した。すごい兄妹である。



張本智和選手、台湾のエースを破って4大会ぶりの決勝進出・・・日本経済新聞より

大谷選手

防御率0.82！ 両リーグトップ ホームランも出て打撃復活

原稿締め切りギリギリまで待つて、大谷投手の登板試合を観戦してよかった。

実に七回まで無失点、八奪三振で四安打のみ。勝利投手の三勝目。防御率は両リーグトップの0.82。二番手以降に大きく水を空けてのトップである。すごい！

まさに安定感のあるピッチング。サイヤング賞がどんどん近づいてくる。このまま受賞まで行って欲しい。

今シーズンの打者としての大谷選手は、長い間ホームランも打てず、ヒットも出ずで心配だったが、十三日の試合でようやく期待のホームランが出た。その打席の前にヒットも出た。

大谷選手もほっとしたであろう。



大谷投手 5/14 登板・・・日刊スポーツより

ベガルタ仙台

現在EAST-AリーグTOP決定 いわきFCも2位となり奮闘

前号でもお伝えしたように二〇二六年シーズンはJリーグの大変革で、リーグ戦が八月の開幕から翌年六月までの秋春制に移行するが、それに伴い二月からはJ2・J3が東西南北十チームずつに分かれ戦う百年構想リーグが開催されている。

「ベガルタ仙台」は五月十一日終了時点で「EAST-A」トップをキープした。リーグ戦は残り二試合で、二位チーム勝ち点差を『九』に広げたため首位が確定。

福島「いわきFC」の「EAST-B」は、首位ヴァンフォーレ甲府が二位のいわきFCとの直接対決に勝利して勝ち点差を広げ、抜け出した。両チームの奮闘を祈る。

明治安田J2・J3百年構想リーグ

EAST-B					EAST-A				
	チーム	勝点	得失点			チーム	勝点	得失点	
1	J2 ヴァンフォーレ甲府	32	+ 8	1	J2 ベガルタ仙台	40	+18		
2	J2 いわきFC	28	+ 4	2	J2 湘南ベルマーレ	31	+10		
3	J2 北海道コンサドーレ札幌	28	+ 2	3	J2 ブラウブリッツ秋田	29	+ 6		
4	J2 RB大宮アルディージャ	27	+ 9	4	J3 SC相模原	27	+ 3		
5	J3 FC岐阜	27	0	5	J2 横浜FC	23	+ 3		
6	J2 藤枝MYFC	26	+ 1	6	J3 ザスパ群馬	20	-13		
7	J3 松本山雅FC	23	+10	7	J2 モンテディオ山形	19	- 4		
8	J2 ジュビロ磐田	22	- 5	8	J2 栃木シティ	18	-15		
9	J3 福島ユナイテッドFC	16	-10	9	J3 栃木SC	17	- 4		
10	J3 AC長野パルセイロ	11	-19	10	J2 ヴァンラーレ八戸	16	- 4		

2026 年 5 月 11 日終了時の J2・J3 EAST-A&B 順位表



ラショウモンカズラ



クマガイソウ



アズマギク



コゴミ（クサソテツ）

シリーズ 遠野の自然
「遠野の立夏」
遠野10000景より



水車小屋



ユスラウメ



ベニヤマザクラ

暦では立夏である。確かに、関東圏などでは急激に暑くなる日が増えてきたので、立夏もうなずける。とはいえ、遠野は春の真っ最中。草も伸び、花々が咲き乱れ、まさに早春という言葉がふさわしい。

そんなところに、歓迎すべからざる来客がある。「冬眠明けのクマ」である。最近、クマの生態が急激に変化しているような気がする。その一方で、人間のクマに対するその変化に対する認識が追いついていないのではないかと思うのだ。いずれにしても、遠野では、楽しみにしていたであろう山菜採りもキノコ採りも残念ながら控えた方が良さそうである。



石塔群とハナモモ



写真でお伝えする
東北の風景
「早春の西和賀」

写真撮影 尾崎匠

